

第214回イタリア映画鑑賞会

入場無料

- 日 時：2024年12月20日(金) 18:00 開場/18:30 開演 (20:30 頃終演予定)
- 会 場：あじびホール
(福岡市博多区下川端町 3-1 福岡アジア美術館 8 階 / TEL 092-263-1100)
- 入 場 料：入場無料/先着 100 名様

※事前申込は不要です。直接会場へお越しください。なお、定員(100名)になり次第、締め切らせていただきます。

※やむを得ず、急遽上映作品の変更や鑑賞会を中止にする場合がございます。

第 214 回上映作品 **追悼：アラン・ドロン**

『太陽がいっぱい Plein Soleil』

(1960年 118分 フランス語・イタリア語/日本語字幕)

監督／ルネ・クレマン
脚本／ポール・ジュゴフ、ルネ・クレマン
原作／パトリス・ハイスマス
製作／ロベール・アキム、レイモン・アキム
音楽／ニーノ・ロータ
撮影／アンリ・ドカエ
編集／フランソワーズ・ジャヴェ
出演／アラン・ドロン、マリー・ラフォレ、モーリス・ロネ

2024年8月18日、フランスの名優アラン・ドロン氏が88才で亡くなられた。1935年11月8日、パリ郊外のセーヌ県ソーで映画館を経営する父と薬剤師の資格を持つ母の間に生まれる。が、両親の離婚や再婚、義父とも合わず、14才で食品店で働き始める。17才でフランス海軍へ入隊、第1次インドシナ(現・ベトナム)戦争へ従軍。20才で除隊。さまざまな職業を転々とする。1957年『女が事件にからむ時』で映画デビュー。1959年『お嬢さん、お手やわらかに』が大ヒット。1960年ルネ・クレマン監督『太陽がいっぱい』に主演、世界的大ヒットで日本でも知られるが、それはやはり彼の美貌の賜だろう。その後、イタリアのL. ヴィスコンティ監督の『若者のすべて』『山猫』、M. アントニオーニ『太陽はひとりぼっち』などイタリア映画にも数多く出ている。

今回の映画はフランス語だが、ローマ、ナポリが舞台でイタリア語もしゃべるドロンが素な『太陽がいっぱい』。アメリカ人トム・リプリーは、大金持ちのグリーンリーフ氏から頼まれ、ナポリにいる息子呼び戻す仕事を引き受けるが、自由奔放なフィリップ・グリーンリーフに振りまわされた末、ヨットでフィリップを殺してしまう。リプリーは彼の女マルジュも彼の金も全て手に入れようと画策するのだが…。

ラスト、イスキア島浜辺のドロンの笑顔とニーノ・ロータのテーマ曲が最高のこの1本を、追悼に捧げます。(解説 湯越 勘一)

《お問合せ先》 福岡日伊協会 事務局 渡・本村・清家
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-3-6 西日本シティ銀行内
TEL: 092-476-2153 / FAX: 092-476-2634
E-mail: aigfukuoka2@galaxy.ocn.ne.jp